



個人投資家向け 会社説明会

2026年2月16日

社会の安全と発展のために

 **株式会社セック**
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp> 証券コード:3741

本日の内容

事業内容

リアルタイム技術専門のソフトウェア会社
リアルタイム技術と会社理念「社会の安全と発展のために」

特徴と強み

QCD&Iをスローガンとするお客様中心ビジネス
チャレンジする風土と研究開発重視

業績の推移

技術革新をチャンスに成長
通期業績の推移と今期業績見通し

今後の展開

先端技術を窮める
先端技術を窮め、高付加価値化ビジネスを推進する

事業内容 | 会社概要「リアルタイム技術専門のソフトウェア会社」



Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

システムズエンジニアリング(システム工学)を究めた**プロの技術者集団**を目指す

- 設立 1970年5月
- 事業内容 リアルタイムソフトウェア 及び ソリューションの提供
- 上場市場 東証プライム: 証券コード 3741
- 資本金 4億7,730万円
- 従業員数 383名(2025年4月1日現在)
- 本社住所 東京都世田谷区用賀 4-10-1 世田谷ビジネススクエア
- URL <https://www.sec.co.jp>
- 主要顧客及び取引先
 - 大手通信キャリア、大手電機メーカー、大手自動車メーカー、官公庁など
 - 研究機関(情報通信研究機構、宇宙航空研究開発機構など)



東京本社
(東京都世田谷区用賀 世田谷ビジネススクエア)

事業内容 | リアルタイム技術

「リアルタイム技術」の可能性は無限です

科学衛星やロボットのように、センサーが捉えた情報を入力とするシステムの開発を、セックは得意としています。

センサーからの入力は、突然発生したり、集中したり、どんな順序で発生するか予測できず、再現性がありません。

このような入力に対して、瞬時に応答し、24時間連続で動き、再現性がない事象であってもトラブルを解析できる、高度な信頼性が求められるシステムを設計する技術が、「リアルタイム技術」です。



Point①

リアルタイム技術の適用先は先端分野

リアルタイム技術は、サイエンスを支えるシステムエンジニアリング技術であり、その適用分野は必然的に先端分野です。

Point②

リアルタイム技術は普遍的

創業当時はダムや電波望遠鏡の制御システム、現在では車両自動走行、ロボットにIoTと、リアルタイム技術の適用先はますます拡大しています。

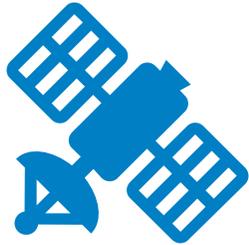
Point③

リアルタイム技術は高品質・高信頼性

リアルタイム技術は信頼性の高いシステムを設計できる技術でもあります。社会の基盤を支えるシステムに、より一層の信頼性が求められる時代、そのニーズに応えます。

事業内容 | リアルタイム技術

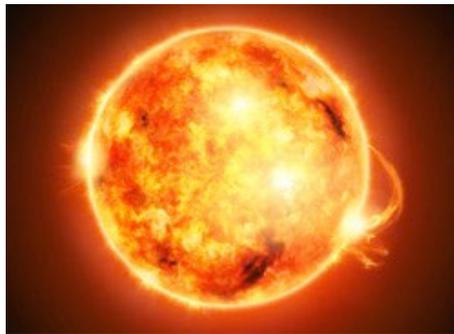
衛星搭載
ソフトウェア



天文現象
を検知

↑ ↓

撮影



自動走行
ソフトウェア



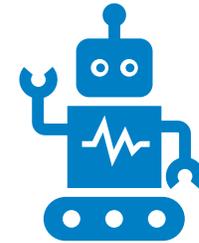
道路状況
を把握

↑ ↓

安全で
最適な
走行



ロボット制御
ソフトウェア



周辺環境
を認識

↑ ↓

人・環境に
配慮した
アクション



50 : 10 : 40
設計 プログラミング テスト

20 : 80
通常用 非常用

事業内容 | 会社理念「社会の安全と発展のために」

社会の安全と発展にかけがえのない一流のソフトウェア会社となる



事業内容 | 社会基盤システムBF

世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発しています。



高度交通システム
ETC/VICS(渋滞情報)



位置情報サービス
ロードサービス・緊急通報



緊急医療支援システム



医薬品・医療機器
安全対策支援システム



防衛関連システム



ヘルスケア関連システム



官公庁向けシステム
家畜個体把握・各種統計・防災関連

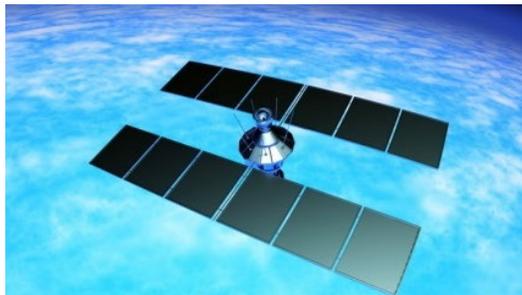


環境エネルギー
マネジメントシステム

事業内容 | 宇宙先端システムBF

人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発と、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発をしています。



衛星搭載システム
ひので、はやぶさ2など



スペースデブリ除去衛星
フライト制御ソフト開発



国際宇宙ステーション
「きぼう」日本実験棟実験装置



天体望遠鏡制御システム
すばる望遠鏡など



ロボット標準化技術
RTミドルウェア、ROS



車両自動走行



自動制御ソフトウェア
船舶、ドローン、トラクター



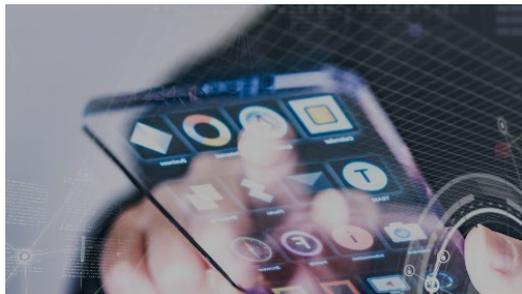
研究機関向けシステム
NICT、JAXA、大学など

事業内容 | モバイルネットワークBF・インターネットBF

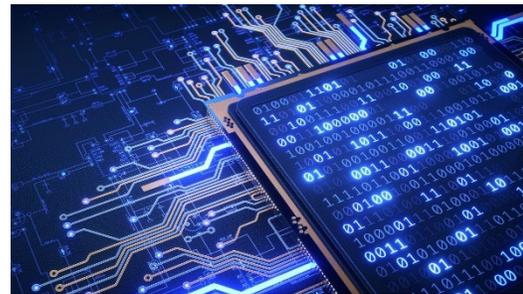
次世代のエッジデバイスとIoTのソフトウェア



キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT関連システム、スマートコンストラクション、XR(クロスリアリティ)など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発しています。



モバイルデバイス搭載機能



非接触IC搭載ソフトウェア



キャッシュレス
モバイル決済端末



車載インフォテインメント
ソフトウェア



スマートコンストラクション



IoT
暑熱作業リスク管理システム



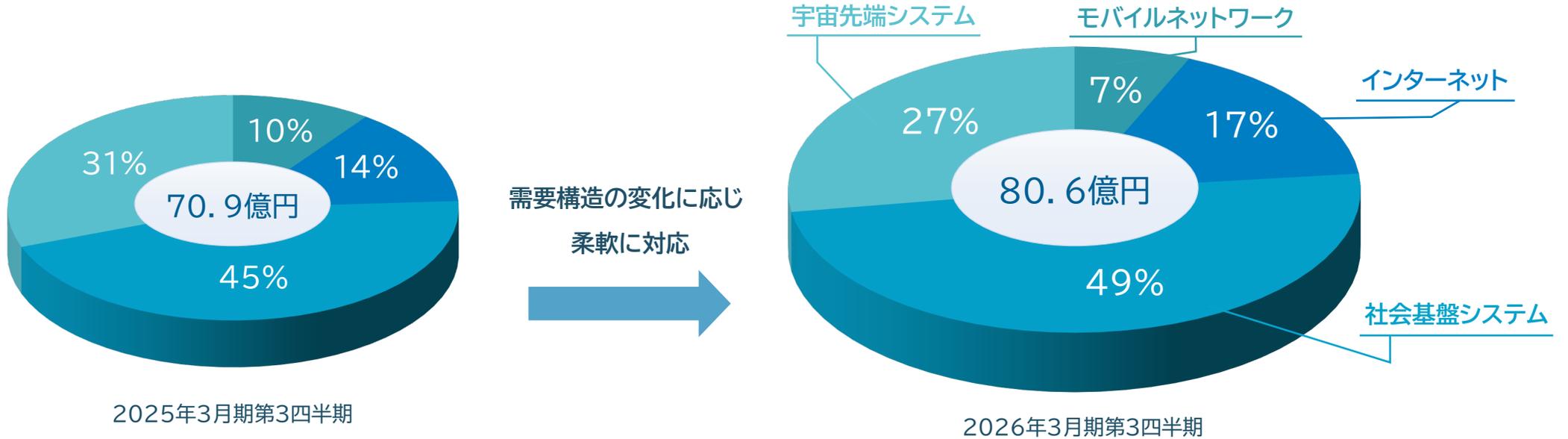
IoT
海中資源管理



XR技術関連開発

事業内容 | 第3四半期BF別売上構成比

IT需要は全体的には概ね堅調



モバイルネットワークBF

減少傾向が継続

インターネットBF

非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加

社会基盤システムBF

医療分野や交通分野の開発が大幅に増加したことに加え、防衛分野の開発も増加

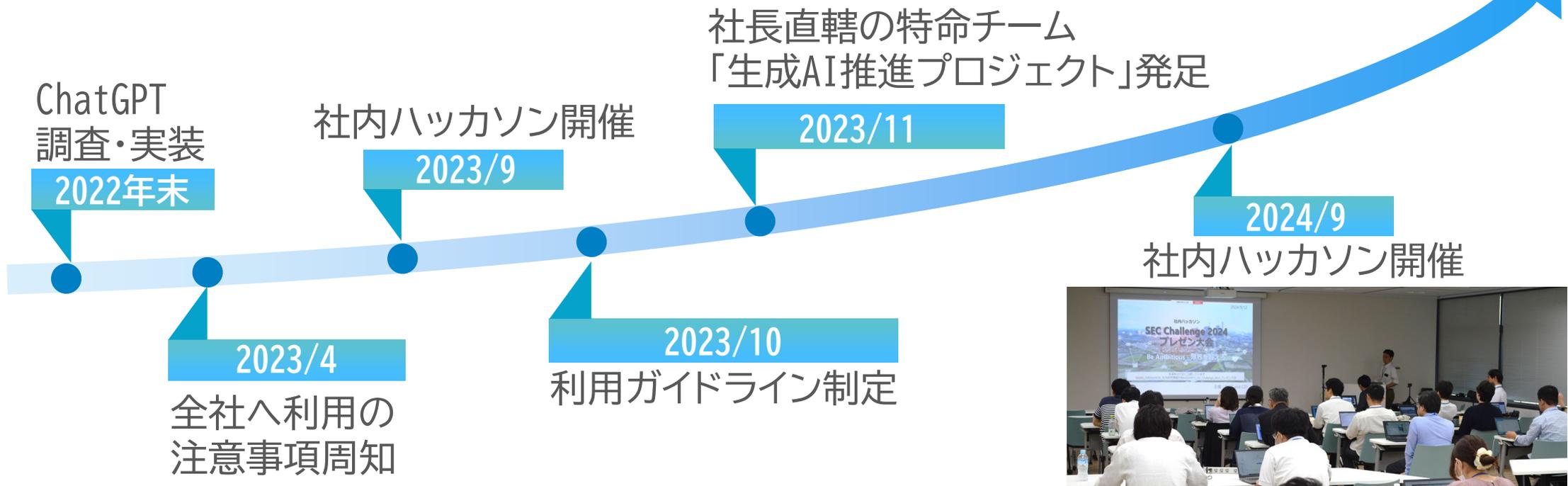
宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加したものの、全体構成比では減少

事業内容 | 生成AIの有効活用

生成AI関連の研究を進めるとともに、AIの活用に伴うリスクへの対策としてAIガバナンスに関する研究を行っています。ソフトウェア開発及び最先端技術を窮めるプロフェッショナルとして、また生産性向上、開発要員の精神的負担軽減などの観点から、生成AI技術に正しく向き合い、有効活用し、目の前に迫っている新しいシステム開発スタイルに備え、変化を先導するポジションを確保していきます。

生成AIを正しく有効活用
変化を先導するポジション確保へ



事業内容 | 持続可能な社会の実現のために



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

当社は、ソフトウェア開発の事業活動を通して社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ推進の考え方としています。

社会課題を起点とした事業機会創出にも取り組むことで、より一層 SDGs の達成に貢献していきます。



E 環境



JQA-EM1216

セックは2000年12月に環境マネジメントシステム(ISO 14001)の認証を取得しました。

以来、「地球資源が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に配慮する」ことを会社方針とし、企業活動と地球環境の調和を目指して、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいます。

S 社会

研究開発

私たちの生活を安全、安心、快適にし、環境負荷をも軽減する「ユビキタス」をテーマに取り組んでいます。

人材育成

プロに相応しい挑戦の機会と魅力ある待遇を提供。

ソフトウェア教育・リスキリング支援

学校や企業、自治体に教育プログラムを提供。

健康経営

健康経営優良法人の認定取得。



G ガバナンス

コーポレートガバナンス

審議に十分な時間をかけた取締役会を開催することと、監査等委員会監査と内部監査による経営チェック機能の充実を重視しています。透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行う仕組みを構築・維持・改善し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいます。

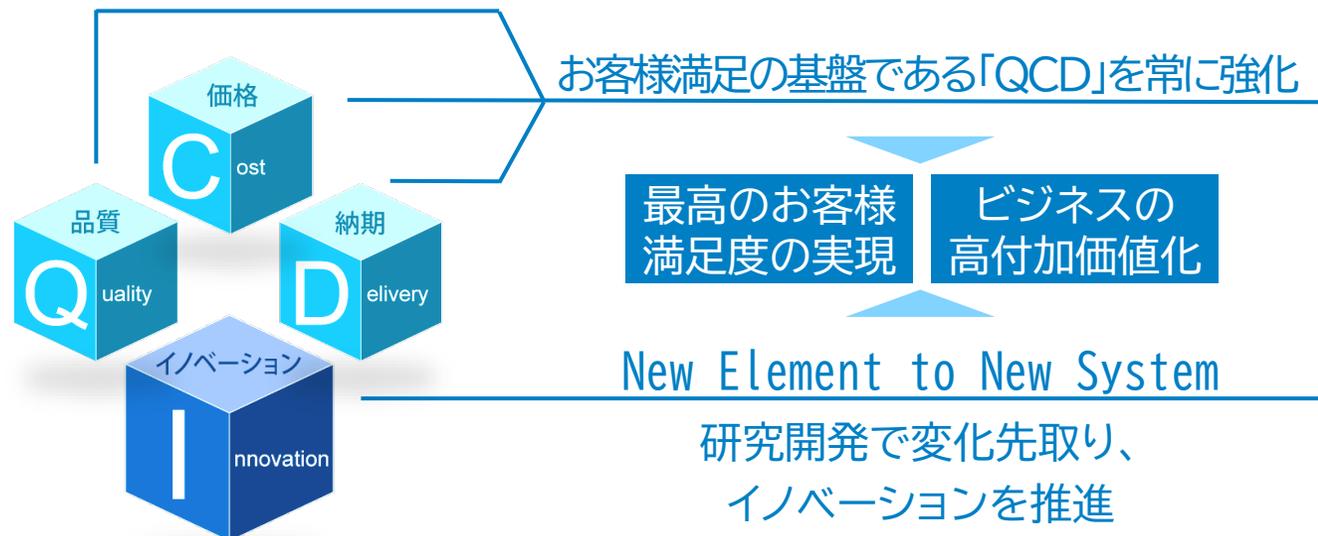
コンプライアンス

「法および社会規範を遵守」することを会社理念の行動規準に定め、社員と共有しています。

特徴と強み | ビジネスコンセプト「QCD&I」と研究開発

研究開発で変化先取りし、最高のお客様満足度を実現する

セックは「QCD(品質・価格・納期)を窮め、I(イノベーション)で飛躍する」をビジネスコンセプトとして、お客様中心ビジネスを推進しています。新しい何かNew Element を常に先回りして準備し、New System の実現につなげることで、お客様満足度を追求しています。このNew Element を予測し、供給する活動が、研究開発です。



研究開発 重点テーマ



セックは2000年代初めより「ユビキタス」を研究テーマとして重点的に取り組んできました。現在は、ユビキタスを具現化した「IoT」、IoTのキーテクノロジーである「AI」、IoTの究極の端末である「ロボット」の3つを重点テーマとして研究開発を推進しています。

特徴と強み | プロフェッショナル化の推進

ソフトウェアビジネスは「人間力」が競争の源泉



品質は文化であり、
品質こそが競争力の源泉

社員全員が
「同じ言葉」
「同じ開発手法」
「同じ品質意識」を持つ。



きちんとした基礎なくして
高度な専門性なし

新卒採用へのこだわり。
新入社員教育6ヶ月の集合教育
で、コンピュータの基礎を身に
つける。



仕事を通して
専門性を高める

「学ぶ組織」を目指す。
プロに「教える」と「育てる」は
ない。「学ぶ」と「育つ」がある
のみ。

質の良い仕事人が人をつくり、人が仕事をつくる

特徴と強み | チャレンジする風土

リアルタイム技術の提供分野は必然的に先端分野

チャンスは蓄積できない
チャレンジ精神を大事に

先端分野の開発は必然的にチャレンジ

イノベーションは成長の源泉
日本初・世界初・難しいことに挑む

研究開発に注力、
大学や研究機関と連携は必然

ネバーギブアップの精神
一括受注へのこだわり

一度引き受けた仕事は最後までやりきる

質のよい仕事がお客様中心主義の原点であり、これが即ち最高の営業活動である

特徴と強み | チャレンジする風土

日本初・世界初を目指すセックのチャレンジの歴史

- ・H1ロケット自動カウントダウンシステム
- ・SOLAR-A（ようこう）太陽観測衛星
- ・すばる望遠鏡オブジェクト指向システム

宇宙・天文



モバイル



- ・携帯電話ワンセグ放送ブラウザ
- ・携帯電話おサイフ機能

- ・機能安全対応ロボットミドルウェア



ロボット



位置情報
サービス

- ・世界初のSVGフォーマットの地図DB
- ・世界初のGPS活用の緊急通報

特徴と強み | チャレンジする風土

自動運転AIチャレンジ

自動車業界を牽引する技術者の発掘育成を目的としたプログラミング競技大会。社員有志がチャレンジし、3位を獲得。



金融データ活用チャレンジ

(金融庁、一般社団法人金融データ活用推進協会主催)

上場企業から開示されている統合報告書やESG報告書などに関する質問に自動的かつ正確に回答する、生成AIを活用したシステムの構築という課題に対し、当社社員が精度部門において3位に入賞。

JSCAS AI Challenge

(日本コンピュータ外科学会)

内視鏡外科領域でのAI人材育成を目的としたAI競技会。内視鏡外科手術の血管処理認識モデルの開発で、当社社員が2位入賞。



特徴と強み | チャレンジする風土

社内ハッカソン(SEC Challenge)

イノベーション推進委員会が主催し、社内コンテストを開催。3回目となる2025年は36チーム88名が参加。



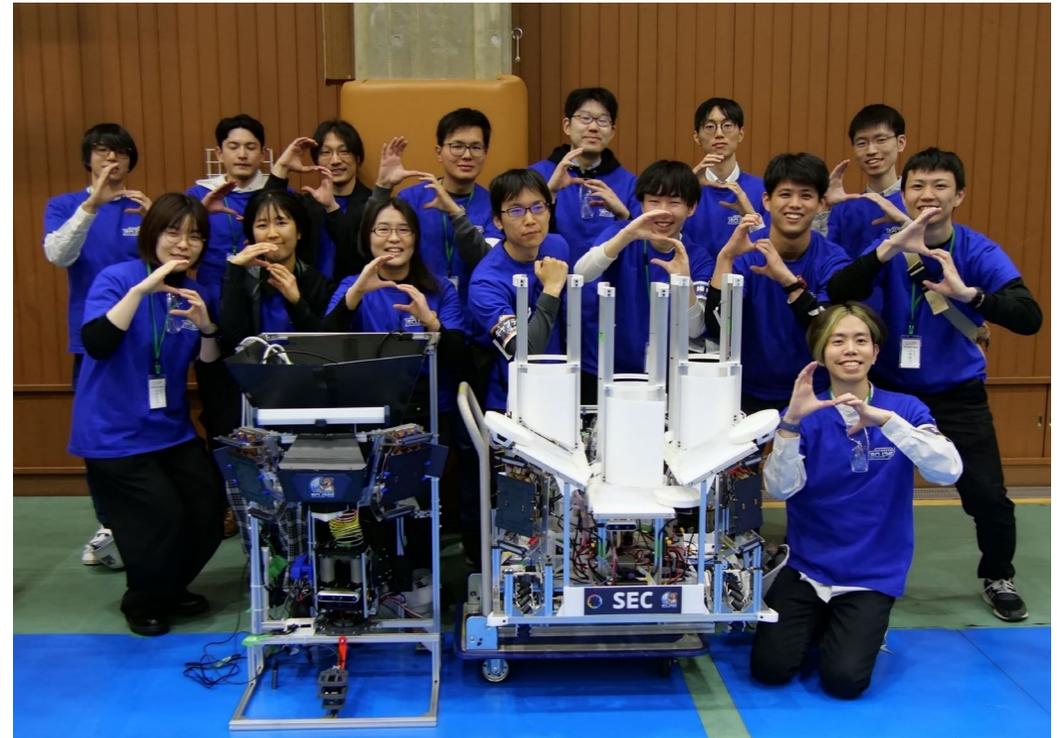
特徴と強み | チャレンジする風土

ロボット開発技術探求プロジェクト

SETAGAYA Eclipse

ハードウェアに関する知見獲得を目的としたプロジェクト。

若手を中心に、ロボット競技を核としたエンジニア選手権「CoRE 1部リーグ」に参戦。

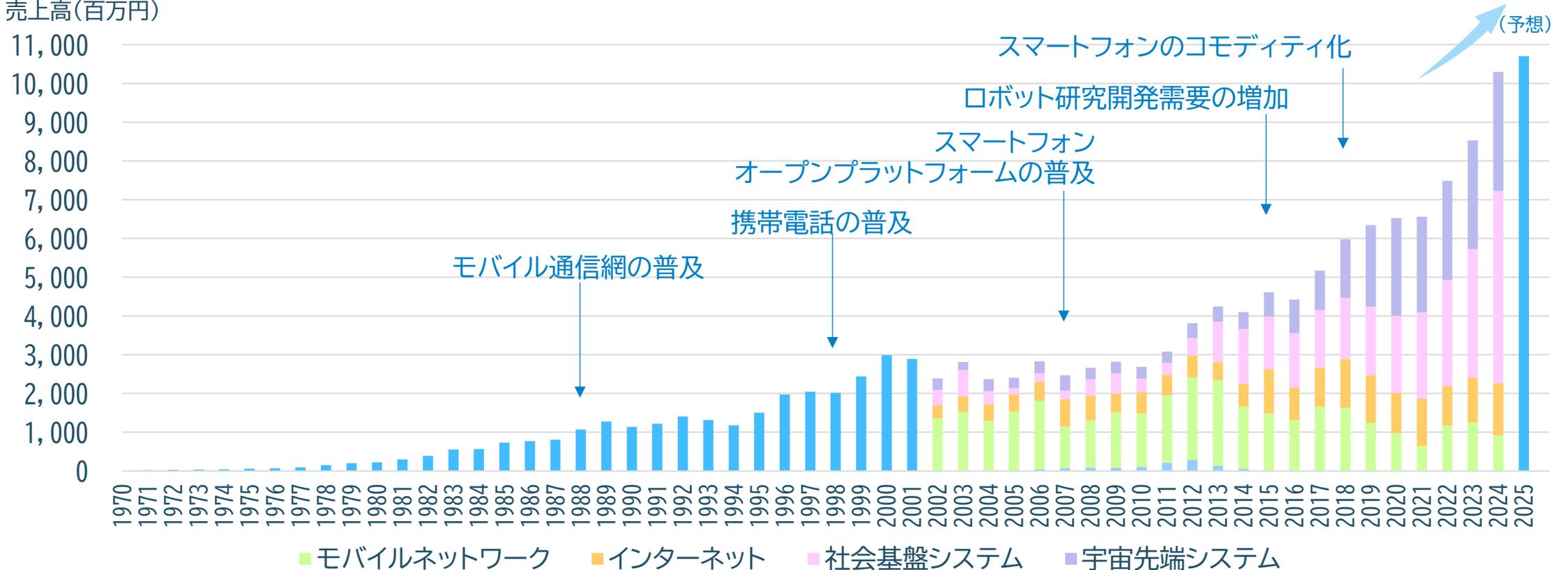


業績の推移 | 創業来の業績推移

変化は成長の源泉

繰り返し到来する技術革新の波は、当社にとって大きな成長のチャンスです。
今後も変化に対応できる人材の育成に注力し、研究開発で変化を先取りし、飛躍的な成長を目指します。

売上高(百万円)



業績の推移 | 2026年3月期第3四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高 前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	8,068	113.8%	
営業利益	1,364	109.2%	16.9%
経常利益	1,474	111.8%	18.3%
当期純利益	1,034	112.2%	

受注高、受注残高ともに過去最高

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	8,547	113.4%
受注残高	6,740	108.4%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

非接触IC関連の開発や、医療分野、交通分野の開発が増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年同期を上回り過去最高となり、受注残高も過去最高となった。

業績の推移 | 2026年3月期業績見通し

継続的な成長を目指し、売上高、利益ともに増加の計画

	2025年3月期実績(百万円)	2026年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	10,295	10,700	103.9
売上原価	7,224	7,470	103.4
売上総利益	3,070	3,230	105.2
販売管理費	1,277	1,390	108.8
営業利益 (営業利益率)	1,793 (17.4%)	1,840 (17.2%)	102.6
経常利益 (経常利益率)	1,893 (18.4%)	2,010 (18.8%)	106.1
当期純利益	1,344	1,395	103.8

売上高 前期と同様の需要環境を見込み、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約4%増を見込む

売上原価 社員数増加や、定期昇給に加え大幅なベースアップによる人件費の増加、仕入高の増加などにより、増加を見込む

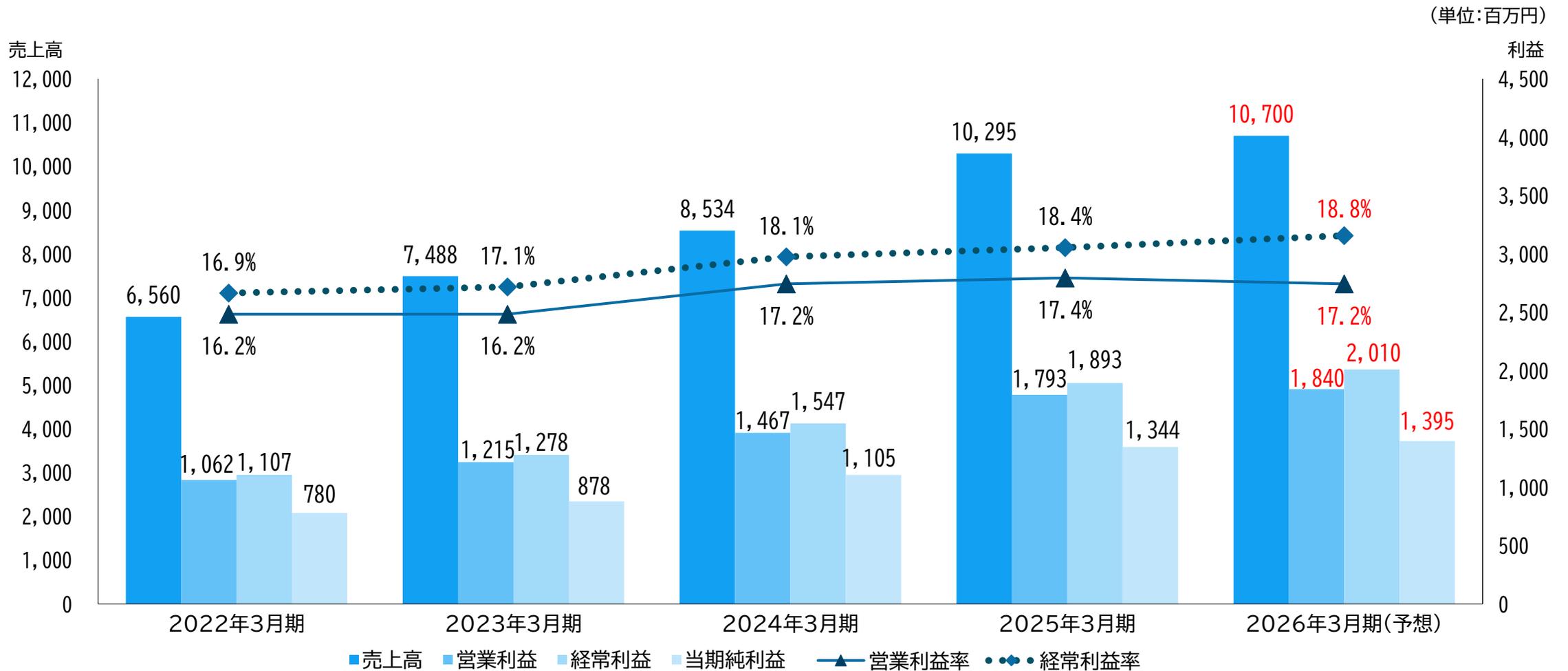
販売管理費 新入社員の増加などによる労務費の増加、研究開発の増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

業績の推移 | 通期業績の推移

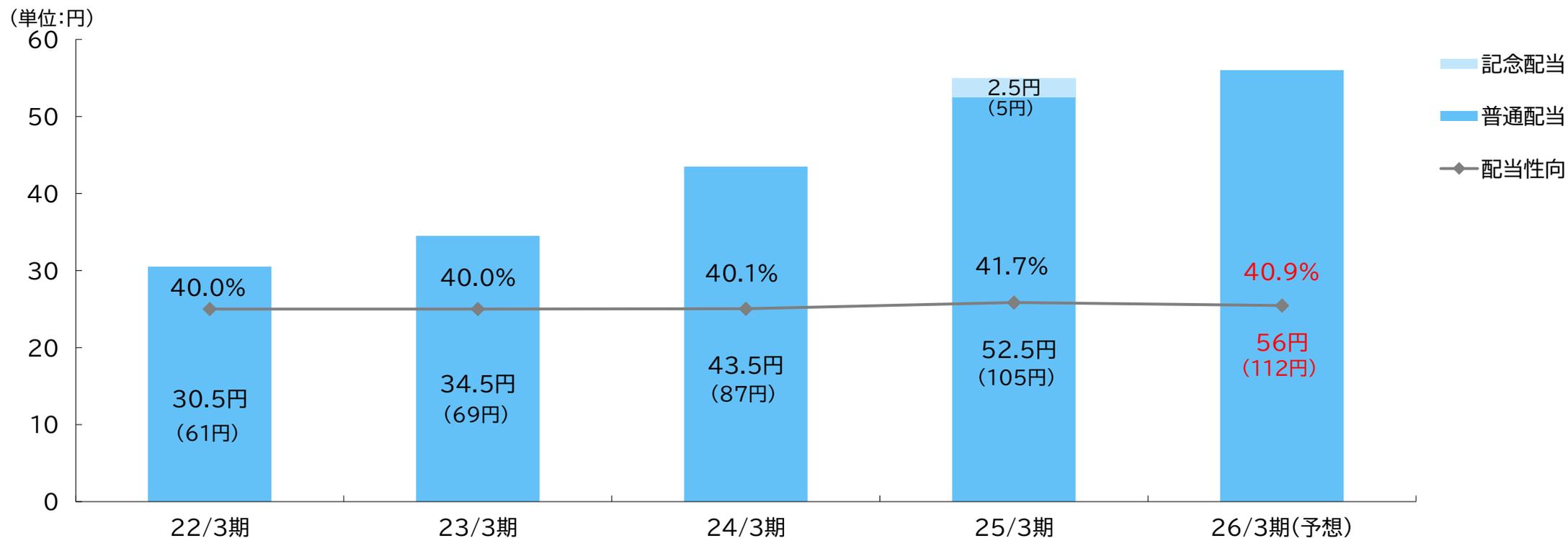
9期連続の増収増益を目指す



業績の推移 | 配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2025年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施いたしました。
2026年3月期は、株式分割の実施に伴い、配当予想を期初予想の1株当たり111円(分割後換算55.5円)から56円に修正いたしました。



※1株当たり配当金は、2022年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して算出しております。()は株式分割前の金額。

先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。
2. 特に、AIや量子コンピュータ、エッジコンピューティング、デジタルツイン、ロボティクス、XR(クロスリアリティ)、BMI(Brain-machine Interface)などの研究に注力する。

「高付加価値化」

1. 最先端のリアルタイム技術に取り組み、高単価、高付加価値化を目指す。
2. 研究開発・製品開発活動により得たニューエレメント(革新的技術、標準化技術、ソリューション製品、特許など知的財産権、新ビジネスモデルなど)を核として、主体的なビジネスを推進する。
3. サイバーレジリエントな環境と体制を整備する。

「人的資本投資」

1. AI、デザイン思考、データサイエンス、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化する。
2. ハードウェアベンダとの人材交流を進め、ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化する。

今後の展開 | 量子コンピューティング

量子コンピュータ実用化を促進するソフトウェアの開発

量子コンピュータは従来のコンピュータを凌駕する計算能力を期待されていますが、その実用化には量子ソフトウェアが必要です。大阪大学を中心とした共同研究チームの一員として量子ソフトウェアの研究開発を推進し、量子コンピュータの活用手法や、量子コンピュータを利用する上で必要になるクラウド環境に関する研究開発を行っています。

大阪大学が稼働を開始した「純国産」量子コンピュータの開発に協力

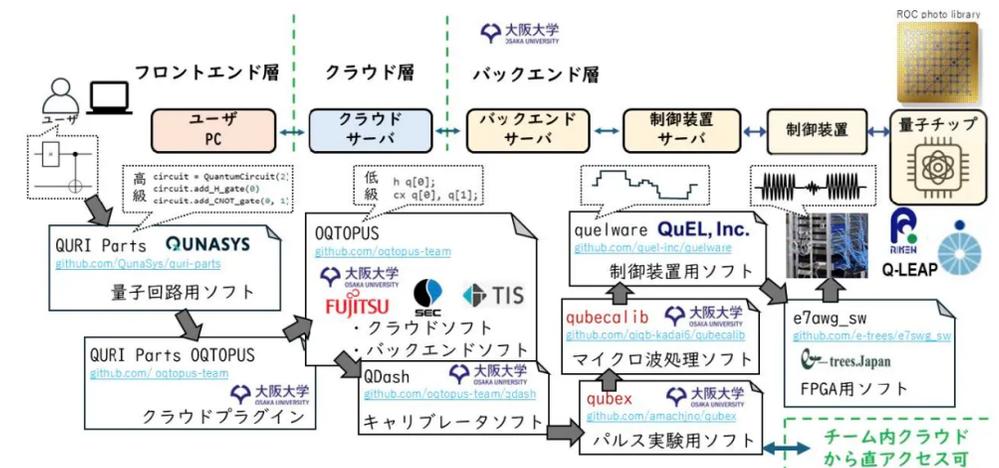
2025年7月28日、大阪大学量子情報・量子生命研究センター (QIQB)にて、主要部品・パーツやソフトウェアが全て日本製となる「純国産」超伝導量子コンピュータが稼働を開始しました。

本システムは大阪大学を中心とした共同研究グループにより開発されたもので、当社は量子計算の高速化技術の共同研究や量子クラウドソフト「OQTOPUS」の共同開発等に貢献しています。

2025年7月28日 当社ニュースリリース :

<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-4179713406098432955.html>

阪大クラウド量子コンピュータスタック2025



量子コンピュータシステムを構成するソフトウェアのスタック

Copyright © OSAKA UNIVERSITY. All Rights Reserved.

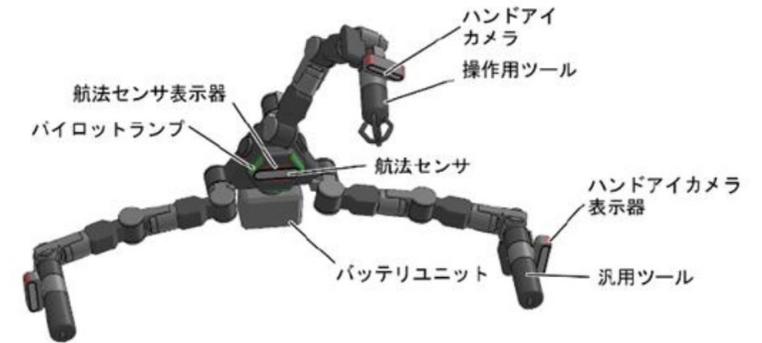
今後の展開 | 宇宙×ロボット

パイロードの管理・運搬・操作ロボットシステム「PORTRS」ISS実証用システムの開発(JAXAの技術提案方式の調達案件)

「PORTRS」は、国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟で動作する多肢ロボットを地上から遠隔操作することにより、実験サンプルなどの物品の搬送・操作や、船内の状態の確認・監視を自動化するためのシステムです。
ISS船内の作業効率化や宇宙飛行士の作業軽減を目的とし、2024年3月にスタートしました。

代表者 : 株式会社セック
共同提案者: 株式会社浜野製作所/株式会社ウェルリサーチ/コニカミノルタ株式会社

2024年3月11日 当社ニュースリリース :
<https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/news71932186239469261.html>



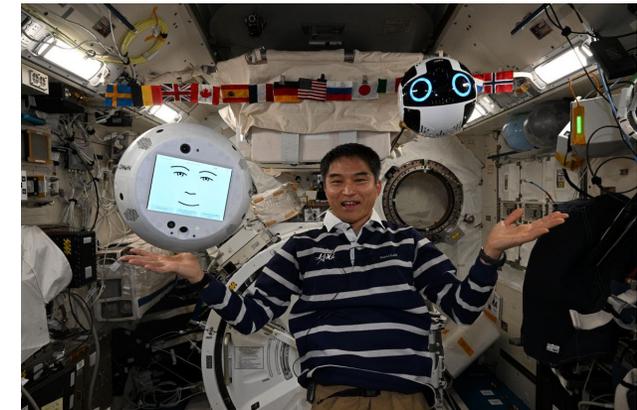
RFP※提案時の多肢ロボット外観イメージ

※JAXAの企画競争入札の技術提案方式(Request for Proposal方式)

ISS上の宇宙ロボット協働実証実験「ICHIBAN ミッション」に技術協力

2025年7月29日、JAXAが開発したISS船内ドローン「Int-Ball2」と、ドイツ航空宇宙センター(DLR)が開発した宇宙飛行士支援システム「CIMON」の2体の宇宙ロボットがISS上で協働する実証実験「ICHIBAN ミッション」が行われ、成功しました。
異なる機関で開発された2体の宇宙ロボットが、ISS内の異なるネットワークをまたいで通信・協働することに成功した画期的な成果で、当社は「Int-Ball2」が「CIMON」との間でリアルタイムに遠隔監視データとコマンドの送受信を行うためのインターフェースを開発しました。

2025年7月31日 当社ニュースリリース :
<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-310333214302696395.html>



ISS内の「CIMON」(左)、大西宇宙飛行士(中央)、「Int-Ball2」(右上)
画像提供: JAXA/DLR/ESA/NASA

今後の展開 | 月面開発に向けた取組み

宇宙戦略基金(第二期)「月面インフラ構築に資する要素技術」に採択

JAXAが公募する「宇宙戦略基金事業(第二期)」において、「技術開発テーマ／探査等(月面インフラ構築に資する要素技術)」に国立大学法人東京大学、学校法人立命館(立命館大学)などと共同で応募し、採択された。

■ 研究開発テーマ：「水・金属元素探査装置のフライトモデル開発と月面資源量の実測」

- 地球からの高い輸送コストが将来の持続的な月面活動に向けたインフラ構築においての最大の課題の一つであり、月面に存在する水や金属元素などの資源を現地で調達する技術の確立が不可欠。
- 本プロジェクトでは、月面資源として期待される元素の濃度と鉱物組成を月面その場で計測可能な観測装置の開発を行い、月面での資源探査技術実証と資源データの取得を目指す。
- 4つの観測装置を組み合わせ、資源元素の発見、濃度・総量の評価、存在形態を特定する観測手法の実証を目指す。

■ 当社の役割

当社は、立命館大学を中心とする開発チームの一員として広角分光カメラおよび顕微分光カメラの開発に参画し、システムインテグレーションや制御ソフトウェア開発を担当する。これまで科学衛星や月面ロボットなど、多くの宇宙機搭載ソフトウェアの開発に携わってきた経験を生かし、将来の月面開発に向けた技術開発に取り組む。

2026年2月10日 当社ニュースリリース：https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20260206550473/pdfFile.pdf

今後の展開 | エッジコンピューティング

エッジAIチップの開発

「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」(NEDO公募事業)

人の脳の仕組みを数式化した機械学習アルゴリズムのひとつであるレザバー計算モデルを実行する集積回路チップ(エッジAIチップ)を開発し、AIを搭載したエッジデバイスとしてロボットやIoT分野への応用と実用化を目指しています。

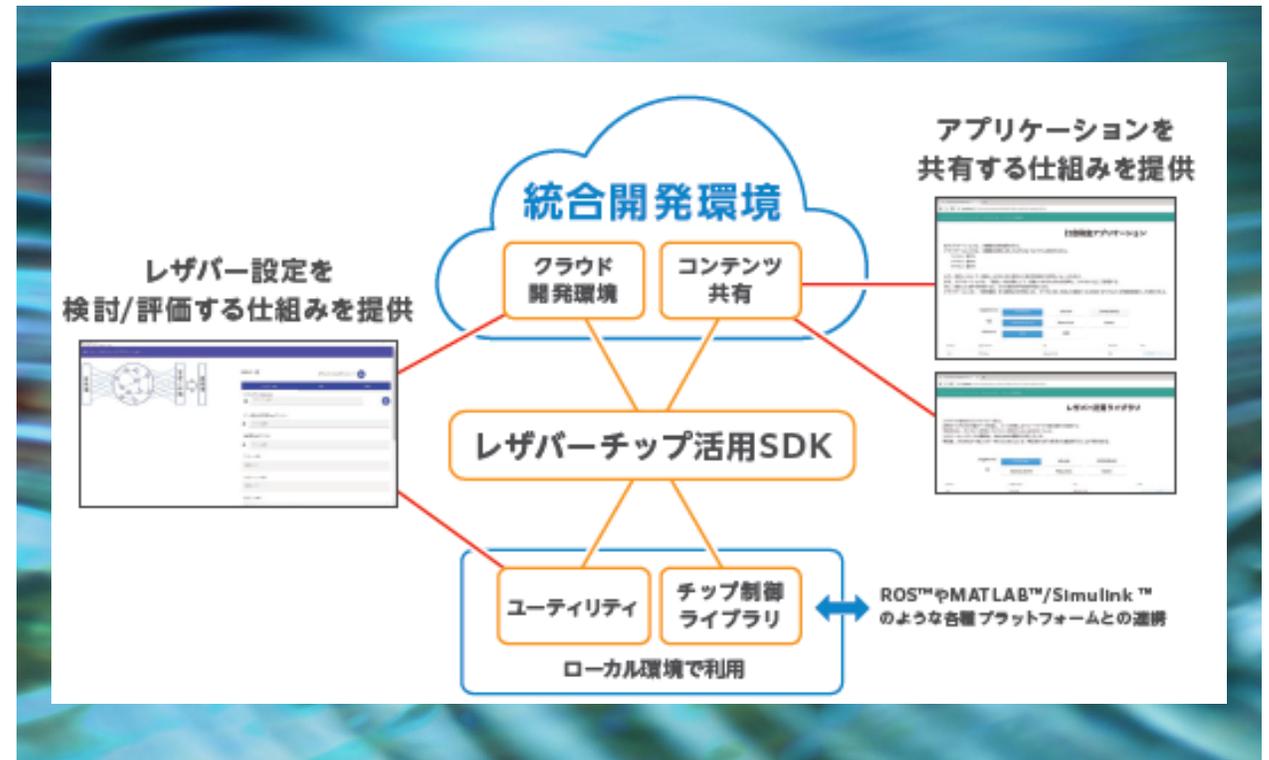
■ ロームのAIソリューション「Solist-AI™」のエコシステムパートナーに参加

研究開発中のレザバーコンピューティングを、ロームの協力のもと、「Solist-AI™」マイコンに実装。

※「Solist-AI™」は、ローム株式会社の商標または登録商標です。

■ インフラモニタリングシステム実証実験の実施

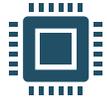
京都リサーチパークにおいて、インフラモニタリングを想定したIoTシステムの実証実験を実施。



レザバーチップを利用したアプリケーションを開発するための様々なツールを開発

今後の展開 | リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システム

「膀胱がんの見落としを防ぐリアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発・事業化」に参画



レザバーチップAI を用いて膀胱がんの内視鏡検査を支援

膀胱がんの見落としを防ぎ、高い診断精度の実現を目指す。



筑波大学発スタートアップの株式会社 Vesica Japanとの共同研究

日本医療研究開発機構(AMED)の「橋渡し研究プログラム(大学発医療系スタートアップ支援プログラム)」の筑波大学拠点におけるシーズS2課題として採択。



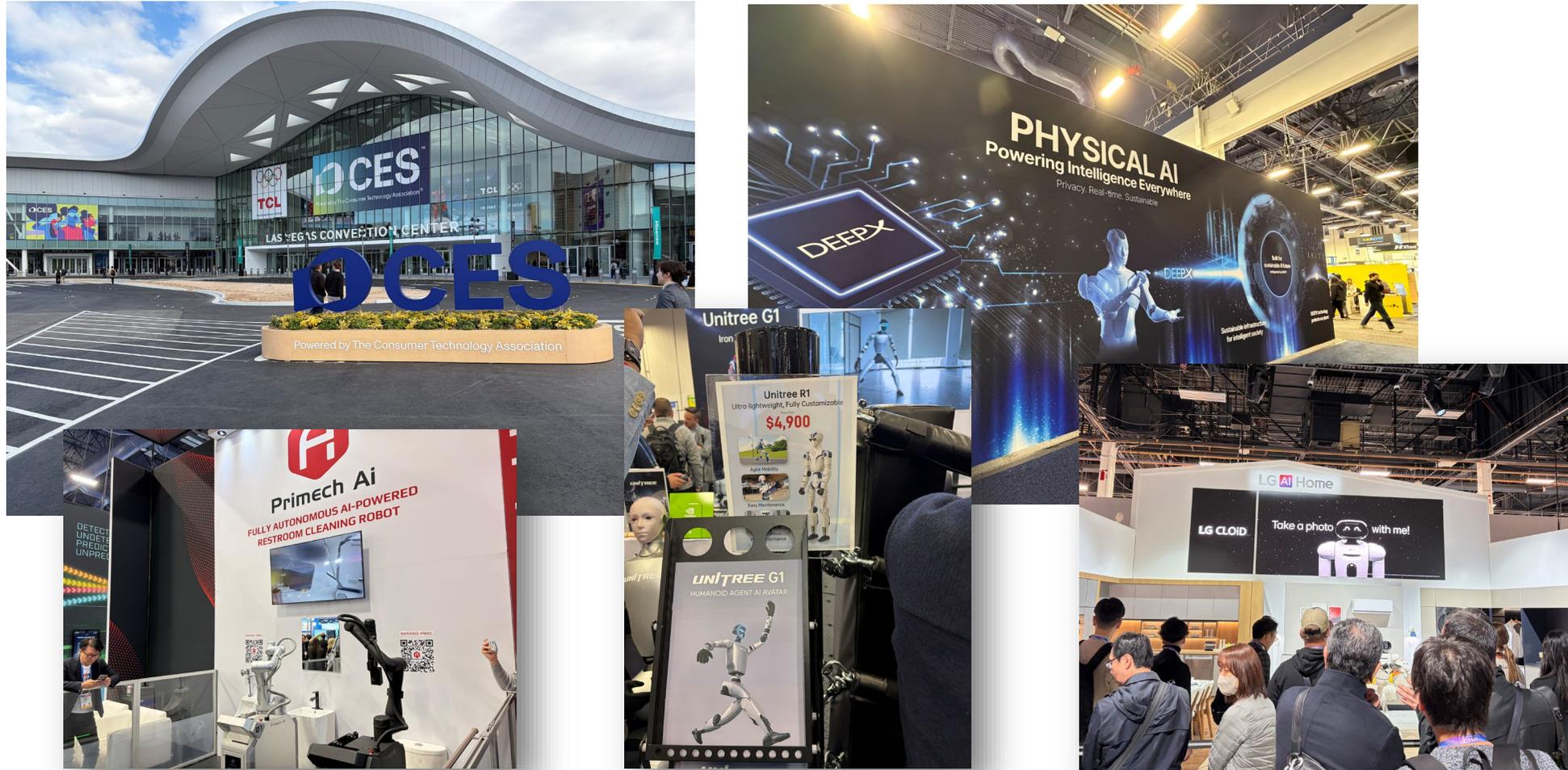
国内外承認取得のための製品開発プロセスに則った開発

国内の薬事承認制度及び米国食品医薬品局(FDA)承認取得のための製品開発プロセスに則った開発を目指す。「リアルタイム技術」を適用し、高い安全性や信頼性が求められる医療分野の発展に貢献。

2025年8月5日 当社ニュースリリース : https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20250804529577/pdfFile.pdf

今後の展開 | リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システム

CES2026



今後の展開 | リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システム

CES2026 Japanパビリオンにてデモ展示を実施



ソフトウェアが主役の時代

個人・企業・国の競争力は、ソフトウェアで決まる時代

- ✓ 垂直統合型から水平協調型へ(日本発で世界を目指す)
- ✓ エッジコンピュータからクラウドまでワンストップなDXを推進
- ✓ 宇宙、ロボット、エッジAI、量子コンピュータで人類の夢を叶える

